

27-1 [江東地域の特性を生かした鉢花・花苗生産による地域ブランド商品の開発] 7月まき栽培における高性マリーゴールド品種の生育・開花特性

田旗裕也
(江戸川分場)

【目的】

2000年度はフレンチ系，01年度はアフリカンマリーゴールドについて，周年を通じた開花特性と品種間差を報告した。本年は，切花用の高性アフリカン系品種について，7月まき鉢植栽培の生育開花特性を明らかにし，地域特産品目としての可能性を評価する。

【試験方法】

高性種‘エローアイシス（黄花）’，オレンジアイシス（橙花）’，ゴールドコインソプリン（黄花）’，ゴールドコインダブルーン（黄橙花）’ならびに中性種‘ホワイトバニラ（白花）’を供試した。対照品種は，わい性種‘アンティグアイエロー’，中性種‘インカイエロー’の2品種とした。02年7月16日に200穴セルトレイへ播種し，8月1日に10.5cm黒ポリポットへ鉢上げした。高性4品種は9月13日に径15cmプラ鉢に定植し，他品種はポリポットのまま栽培した。基肥はマグアンプK(40-6-12)を2kg/m³使用し，9月1日に追肥としてIB化成を1株あたり2粒施用した。なお用土は試験場慣行配合を使用し，鉢上げ後は雨よけハウス内で管理した。主茎頂花の開花状況を，0:未開花，1:蕾着色，2:開花，3:開花終，の4段階評価し，開花始日・終了日，側枝開花始日を調査した。10月15日に生育調査を行った。

【成果の概要】

1) 開花の品種間差：対照品種のうちわい性中輪‘アンティグアイエロー’は9月14日，大輪‘インカイエロー’は9月19日に蕾着色を開始した。一方，高性4品種の蕾着色と開花始日は，いずれも対照品種より遅く，特に‘エローアイシス，オレンジアイシス’の蕾着色は，対照品種の開花始以後となった（図1）。

2) 出荷期間と生育：開花段階1から2までの日数を「蕾出荷可能期間」，開花段階2から3に要した日数を「開花株出荷可能期間」で表した。「蕾出荷可能期間」は各品種とも3～6日程度で大差なかった。「開花株出荷可能期間」は，大半の品種で15日程度であったが，‘エローアイシス’は9日と短かった。側枝開花始日は‘エローアイシス，オレンジアイシス’で特に遅い傾向があった。主茎開花から側枝開花に要した日数は，対照2品種が約30日だったのに対し，高性4品種は極めて短く，主茎開花終了以前に側枝開花が始まる傾向が強かった。高性4品種の草丈は1mに達し，また，側枝の発生本数も多く，側枝開花性も優れ，草姿は暴れる傾向があった（表1）。

3) 以上の結果，高性アフリカン系品種は，蕾出荷・開花株としての出荷可能な期間が短く，1株植の鉢栽培での品目導入は困難である。しかし，他品種にない花色・花径は大きな魅力であり，特に‘ゴールドコイン’系品種は，高性で側枝発生に優れる特性を生かし，注文に応じた装飾用の大鉢生産も有望と考えられる。

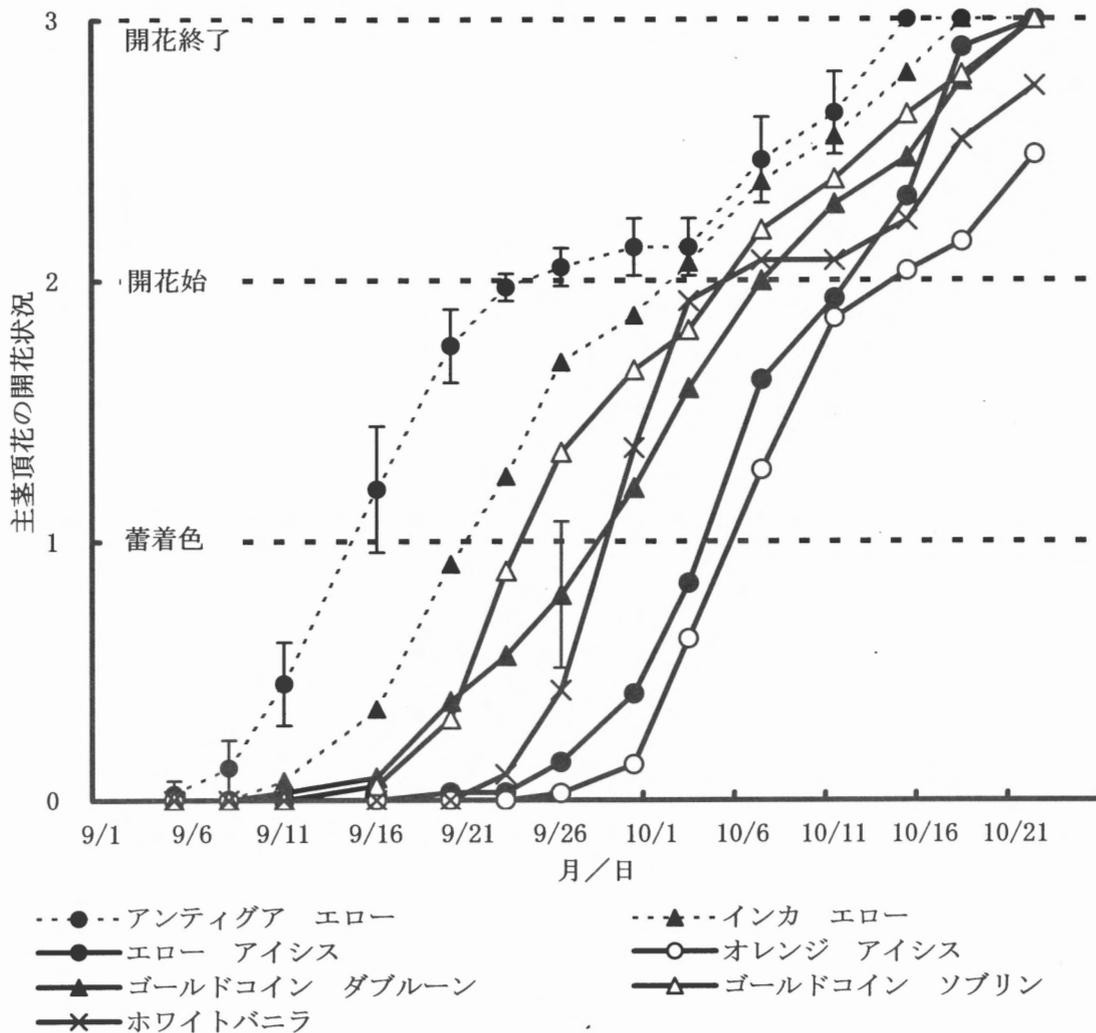


図1 7月まき高性マリーゴールド品種の鉢栽培における開花状況
 注) 播種日: 2002年7月16日, 'エロー・オレンジアイシス, ゴールドコインダブルーン・ソプリン' は径15cm鉢, 他品種は10.5cmポット栽培。開花状況は主茎頂花の状態を, 0: 未開花 1: 蕾着色 2: 開花始 3: 開花終了の4段階に分け算術平均して求めた。ドットに付した上下線は95%信頼区間を表す (n>29)。

表1 7月まき高性マリーゴールド品種の鉢栽培における出荷可能期間と側枝開花状況および生育

品 種	出荷可能期間(日)		月/日	側枝開花		草丈 (cm)	花径 (mm)	側枝数 (本)
	蕾出荷	開花		主茎開花始~*	主茎開花終~**			
アンティグア エロー	5.1	18.7	9/27	27.5	-11.4	45.5	77.7	8.6
インカ エロー	6.2	14.8	9/29	29.1	-11.7	67.8	94.5	6.3
ホワイトバニラ	4.6	17.1	10/3	3.2	-17.1	59.5	72.3	8.2
エロー アイシス	5.0	9.1	10/8	8.2	-9.4	92.0	81.6	10.6
オレンジ アイシス	3.5	16.4	10/7	11.0	-15.8	110.9	77.8	11.3
ゴールドコイン ダブルーン	5.2	15.5	10/3	3.6	-12.2	106.0	97.1	9.7
ゴールドコイン ソプリン	5.6	14.8	10/1	1.1	-13.6	98.1	93.1	12.6

注) 調査日=10月15日

*主茎開花始から側枝開花始に要した日数。 **主茎開花終了から側枝開花始に要した日数。